

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)																																																																																																																																		
H010A102		福祉健康科学概論(Principles of Welfare and Health Sciences)																																																																																																																																							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	履・限	担当教員																																																																																																																																			
必修	1	1	福祉健康科学部	前期		氏名 中山慎吾、片岡鼎志、朝井政治、池永恵美																																																																																																																																			
						E-mail nakayama-shingo@olta-u.ac.jp 内線 7518(中山), 7457(片岡), 7651(朝井), 6107(池永)																																																																																																																																			
授業の概要 「福祉健康科学」は、本学部設置時に新しく創設した学問であり、「医療と心理、福祉を融合」した新しい学問領域である。本科目では、地域包括ケアシステムを実践する「領域横断型」の専門職のリーダーとなりうる「生活支援の専門職者」を養成するための最初のステップとして、要支援者の多彩な課題に対応できる社会福祉分野、リハビリテーション分野及び心理分野の専門性を担保したうえで、「生活を包括的に支援する視点」、「自立した生活」の再構築に向けた支援者のあり方と必要性について解説する。																																																																																																																																									
具体的な到達目標 DP等の対応(別表参照) <table border="1"> <thead> <tr> <th>目標</th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標1 「体の健康」「心の健康」「社会とのつながり」について説明できる。</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標2 現在の地域、社会のもつ問題点を説明できる。</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標3 「健康で自立した生活」を送るために必要な支援を説明できる。</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標4 それぞれの専門職の立場で「福祉健康科学」の意義、実践するための方法を説明できる。</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標6</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標10</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>																	目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	目標1 「体の健康」「心の健康」「社会とのつながり」について説明できる。	○	○									目標2 現在の地域、社会のもつ問題点を説明できる。	○	○	○								目標3 「健康で自立した生活」を送るために必要な支援を説明できる。	○	○	○	○							目標4 それぞれの専門職の立場で「福祉健康科学」の意義、実践するための方法を説明できる。	○	○	○	○							目標5											目標6											目標7											目標8											目標9											目標10										
目標	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																																																																																																																															
目標1 「体の健康」「心の健康」「社会とのつながり」について説明できる。	○	○																																																																																																																																							
目標2 現在の地域、社会のもつ問題点を説明できる。	○	○	○																																																																																																																																						
目標3 「健康で自立した生活」を送るために必要な支援を説明できる。	○	○	○	○																																																																																																																																					
目標4 それぞれの専門職の立場で「福祉健康科学」の意義、実践するための方法を説明できる。	○	○	○	○																																																																																																																																					
目標5																																																																																																																																									
目標6																																																																																																																																									
目標7																																																																																																																																									
目標8																																																																																																																																									
目標9																																																																																																																																									
目標10																																																																																																																																									
授業の内容 <table border="1"> <tbody> <tr><td>1</td><td>「福祉健康科学」とは？「健康」とは？（片岡学部長）</td></tr> <tr><td>2</td><td>福祉健康科学に基づく支援① リハビリテーション専門職</td></tr> <tr><td>3</td><td>福祉健康科学に基づく支援② 心理専門職</td></tr> <tr><td>4</td><td>福祉健康科学に基づく支援③ 福祉専門職</td></tr> <tr><td>5</td><td>グループ討議① 「体の健康」と専門職者としての支援</td></tr> <tr><td>6</td><td>グループ討議② 「心の健康」と専門職者としての支援</td></tr> <tr><td>7</td><td>グループ討議③ 「社会とのつながり」と専門職者としての支援</td></tr> <tr><td>8</td><td>まとめ 生活を包括的に支える視点 地域・社会の課題</td></tr> <tr><td>9</td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td></tr> </tbody> </table>																	1	「福祉健康科学」とは？「健康」とは？（片岡学部長）	2	福祉健康科学に基づく支援① リハビリテーション専門職	3	福祉健康科学に基づく支援② 心理専門職	4	福祉健康科学に基づく支援③ 福祉専門職	5	グループ討議① 「体の健康」と専門職者としての支援	6	グループ討議② 「心の健康」と専門職者としての支援	7	グループ討議③ 「社会とのつながり」と専門職者としての支援	8	まとめ 生活を包括的に支える視点 地域・社会の課題	9		10		11		12		13		14		15																																																																																												
1	「福祉健康科学」とは？「健康」とは？（片岡学部長）																																																																																																																																								
2	福祉健康科学に基づく支援① リハビリテーション専門職																																																																																																																																								
3	福祉健康科学に基づく支援② 心理専門職																																																																																																																																								
4	福祉健康科学に基づく支援③ 福祉専門職																																																																																																																																								
5	グループ討議① 「体の健康」と専門職者としての支援																																																																																																																																								
6	グループ討議② 「心の健康」と専門職者としての支援																																																																																																																																								
7	グループ討議③ 「社会とのつながり」と専門職者としての支援																																																																																																																																								
8	まとめ 生活を包括的に支える視点 地域・社会の課題																																																																																																																																								
9																																																																																																																																									
10																																																																																																																																									
11																																																																																																																																									
12																																																																																																																																									
13																																																																																																																																									
14																																																																																																																																									
15																																																																																																																																									
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	☐ 授業時間中に授業内容を振り返りまとめ感想を記録もちょうとすることがあります。 ☐ グループワークでの共同作業を予定しています。	工夫その他の																																																																																																																																						
時間外学習の内容と時間の目安	準備学修 授業に関連する新聞記事等を参照し、参考書等をもとに予習する（5時間）。 事後学修 参考書や配付資料等をもとに復習する（3時間）。レポート等の課題に取り組む（10時間）。																																																																																																																																								
教科書	教科書は指定しません。授業中に配布するプリント等を使用します。																																																																																																																																								
参考書	授業中に随時紹介します。																																																																																																																																								
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10																																																																																																																													
	授業中の課題（振り返り記録等）	60%	○	○	○	○																																																																																																																																			
	レポート等の課題	40%	○	○	○	○																																																																																																																																			
	授業を3分の1以上欠席した場合は、最終評価を行わない予定です。																																																																																																																																								
注意事項																																																																																																																																									
備考	【地域創生教育科目】																																																																																																																																								
リンク																																																																																																																																									
	URL																																																																																																																																								

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	理学療法士, 臨床心理士

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)								
H010A201		地域包括ケア概論(Principles of the Community-based Integrated Care)													
		*大分を創る科目													
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・週	担当教員									
必修	2	2	福祉健康科学部	前期		氏名 中山 慎吾 E-mail nakayama-shingo@oita-u.ac.jp 内線 7518									
授業概要	住み慣れた地域での自立した生活を包括的に支援する「地域包括ケアシステム」の仕組みと専門職としての実践のあり方を理解することを目的とする。地域包括ケアの概念や関連する制度、地域包括ケアにおける多職種連携、地域包括ケアの実践について学習する。医療と福祉の連携に着目しつつ、地域包括ケアにおいてリハビリテーション専門職、心理専門職、社会福祉専門職それぞれの専門性をどう発揮するかを考える授業としたい。														
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1	地域での自立した生活を包括的に支援する「地域包括ケア」の概念や関連する制度について説明できる。					○	○								
目標2	地域包括ケアにおける多職種連携と住民参加のあり方について説明できる。					○	○	○							
目標3	地域包括ケアでのリハビリテーション専門職、心理専門職、社会福祉専門職それぞれの役割を説明できる。					○	○	○							
目標4															
目標5															
目標6															
目標7															
目標8															
目標9															
目標10															
授業の内容	1 地域包括ケアの概念と地域共生社会 2 地域包括ケアと社会福祉協議会、住民参加 3 地域包括ケアと介護サービス（地域包括支援センター含む） 4 地域包括ケアと介護サービス（認知症ケア含む） 5 地域包括ケアと多障害者自立支援（障害者支援含む） 6 地域包括ケアと医療（医療圏含む） 7 地域包括ケアと医療（がん患者支援含む） 8 地域包括ケアと生活困窮者支援 9 在宅療養生活を支える地域包括ケア① 10 在宅療養生活を支える地域包括ケア② 11 在宅療養生活を支える地域包括ケア③ 12 予防・自立生活のための地域連携① 13 予防・自立生活のための地域連携② 14 予防・自立生活のための地域連携③ 15 地域包括ケアの今後の展開と多職種連携の可能性														
ラーニング	A:知識の定着・確認 ○ 毎回の授業の最後の数分間において、授業内容を振り返りまとめと感想を記録。グループでの意見交換。 B:意見の表現・交換 ○ C:応用志向 D:知識の活用・創造					工夫	その他の	ビデオの活用。							
時間外学習の内容と時間の目安	準備 参考書や配付資料等をもとに予習する（10時間）。 事後 参考書や配付資料等をもとに復習する（5時間）。レポート等の課題に取り組み（18時間）。														
教科書	教科書は指定しません。授業中に配布するプリント等を使用します。														
参考書	岡山好美、藤井博志、黒山研二（編著）『よくわかる地域包括ケア』ミネルヴァ書房、2018年。 東京大学高齢社会総合研究機構（編）『地域包括ケアのすすめ』東京大学出版会、2014年。														
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10			
	授業中の課題（振り返り記録等）	50%	○	○	○										
	レポート等の課題	50%	○	○	○										
合計得点60点以上を単位取得の条件とします。															
注意事項	配付資料を綴じるファイル（A4版）を各自用意し、授業の際に持参してください。														
備考	授業の内容等は進捗状況に応じて若干の変更があります。														
リンク	URL														

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)																																																																																																													
H010A107		リハビリテーション概論(Principle of Rehabilitation)																																																																																																																		
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員																																																																																																														
必修	1	1年	福祉健康科学部	前期		氏名 朝井政治 E-mail ma-asai@oita-u.ac.jp 内線 7551																																																																																																														
授業の概要 「リハビリテーション」の概念、関係職種、対象者、内容等について解説する。 これらをふまえた上で、各職種の専門性と他の職種との連携、現在の課題と対策等について、講義、ならびに討議を行う。																																																																																																																				
具体的な到達目標 目標1 目標2 目標3 目標4 目標5 目標6 目標7 目標8 目標9 目標10 DP等の対応(別表参照) <table border="1"> <tr> <td>1</td><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td><td>9</td><td>10</td> </tr> <tr> <td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr> <td>○</td><td>○</td><td>○</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td> </tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>																	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	○	○	○								○	○	○								○	○	○								○	○	○																																																									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																																																																																																											
○	○	○																																																																																																																		
○	○	○																																																																																																																		
○	○	○																																																																																																																		
○	○	○																																																																																																																		
授業の内容																																																																																																																				
1	リハビリテーションの理念と目的																																																																																																																			
2	リハビリテーション対象者と各職種の関わり																																																																																																																			
3	リハビリテーションにかかわる専門職の役割と連携																																																																																																																			
4	ICFについて (1) : 定義、評価方法の解説																																																																																																																			
5	ICFについて (2) : 演習																																																																																																																			
6	リハビリテーションの実際 (1) 医療分野																																																																																																																			
7	リハビリテーションの実際 (2) 保健・福祉分野、地域・予防分野																																																																																																																			
8	様々な福祉用具と介助法について																																																																																																																			
9																																																																																																																				
10																																																																																																																				
11																																																																																																																				
12																																																																																																																				
13																																																																																																																				
14																																																																																																																				
15																																																																																																																				
ラーニング	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造		グループディスカッションをととして、様々な意見をまとめ、発表する					工夫その他の		具体的な事例を提示する																																																																																																										
時間外学習の内容と時間の目安	準備	自分の目指す職業の業務、活躍する分野などについて確認しておくこと (1時間)																																																																																																																		
	事後	講義内容の復習、グループディスカッションや課題への取り組み (10時間)																																																																																																																		
教科書	天満和人ら 編集、セラピストのための概説リハビリテーション (第2版) 文光堂、2018																																																																																																																			
参考書	馬場元毅 著、絵で見る 脳と神経 (第4版) 医学書院、2017																																																																																																																			
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10																																																																																																								
	課題レポート・学修成果物	80%	○	○	○	○																																																																																																														
	グループ討議への参加状況	20%	○	○	○	○																																																																																																														
注意事項	全開講回数の2/3以上の出席がない場合には、評価の対象から除外する。																																																																																																																			
備考	なし																																																																																																																			
リンク	URL																																																																																																																			

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	理学療法士
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	なし
実務経験を いかした教 育内容	リハビリテーション分野での業務経験を活かし模擬症例にて、事例を通じた討議を行う

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)																																																																																																																										
H010A101		アーリー・エクスポージャー(Early Exposure)																																																																																																																															
		*大分を創る科目																																																																																																																															
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	課・限	担当教員																																																																																																																											
必修	1	1	福祉健康科学部	前期		氏名 金教員																																																																																																																											
		E-mail (代表) na-asai@oita-u.ac.jp 内線 (代表) 7551																																																																																																																															
授業の概要 入学後の間もない時期に、リハビリテーション専門職、福祉専門職、心理専門職が現場でどのように働いているかということ、患者や利用者ではない立場で見る。それにより、将来、各専門職となる覚悟と関心を早期に高め、その後の学習へ動機づけ、能動的・問題解決的な自己学習態度を身につけることを目的とする。																																																																																																																																	
具体的な到達目標 DF等の対応(別表参照) <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> <th>5</th> <th>6</th> <th>7</th> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>目標1 人間として未成熟な自分を自覚する。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標2 将来の専門職として無力な現在の自分を理解する。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標3 当事者の立場で物事を考える姿勢を育む。</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標4 専門的な学習に真摯に向き合うことの動機づけを行う。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標5 能動的・問題解決的な自己学習態度を身につける。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標6 専門職となるための覚悟を高める。</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>○</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標7</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標8</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標9</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>目標10</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	目標1 人間として未成熟な自分を自覚する。						○					目標2 将来の専門職として無力な現在の自分を理解する。						○					目標3 当事者の立場で物事を考える姿勢を育む。		○									目標4 専門的な学習に真摯に向き合うことの動機づけを行う。					○						目標5 能動的・問題解決的な自己学習態度を身につける。				○							目標6 専門職となるための覚悟を高める。				○							目標7											目標8											目標9											目標10										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10																																																																																																																							
目標1 人間として未成熟な自分を自覚する。						○																																																																																																																											
目標2 将来の専門職として無力な現在の自分を理解する。						○																																																																																																																											
目標3 当事者の立場で物事を考える姿勢を育む。		○																																																																																																																															
目標4 専門的な学習に真摯に向き合うことの動機づけを行う。					○																																																																																																																												
目標5 能動的・問題解決的な自己学習態度を身につける。				○																																																																																																																													
目標6 専門職となるための覚悟を高める。				○																																																																																																																													
目標7																																																																																																																																	
目標8																																																																																																																																	
目標9																																																																																																																																	
目標10																																																																																																																																	
授業の内容 - 事前オリエンテーション - 施設見学：施設1：医学部附属病院、施設2：社会福祉法人 太陽の家 - 個別体験実習の準備：事前訪問 - 個別体験実習：障害児・者施設、高齢者施設等での体験実習 - 報告会：グループディスカッション・グループ発表(体験や学びの共有) - レポート作成：①実習体験レポート ②課題レポート (新型コロナウイルス感染症の流行状況によっては内容が大幅に変更になる可能性があります)																																																																																																																																	
ラ イ ク ニ ン グ	A:知識の定着・確認 ○体験実習、見学実習、実習の事前訪問。 B:意見の表現・交換 ○グループワーク、全体発表(プレゼンテーション)により、意見交換をしながら学びを共有する。 C:応用志向 ○課題レポートにより自己の省察を行い、自己の課題や学習目標を考え D:知識の活用・創造					工 夫 の 他 の 学生が主体的に個別実習の準備を行い、実習に臨めるよう、実習施設ごとの担当教員がサポートする体制で行う。全体オリエンテーションの実施。																																																																																																																											
時間外学修の内容と時間の目安	準備 実習施設や保健福祉制度に関する事前学習 (6h) 事後 実習体験レポート (1h) 学修 課題レポート (3h)																																																																																																																																
教科書	特になし。適宜資料を配布します。																																																																																																																																
参考書	特になし。																																																																																																																																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10																																																																																																																					
成績評価の方法及び評価割合	各実習への取り組み(事前オリエンテーション・最終報告会含む)	30%	○	○	○	○	○	○																																																																																																																									
	実習体験レポート(施設見学個別体験実習)	30%	○	○	○	○	○	○																																																																																																																									
	課題レポート	40%	○	○	○	○	○	○																																																																																																																									
注意事項 - 施設見学や実習にあわしい服装で参加し、各施設では実習先の指導者に従うこと。 - 医療・福祉施設での実習のため、人所有者や利用者の安全を守るために、自己の体調管理に努めること。体調不良は早めに申し出ること。																																																																																																																																	
備考	実習の詳細については、オリエンテーションで説明する。 【地域創生教育科目】																																																																																																																																
リンク	URL																																																																																																																																

担当教員の 実務経験の 有無	○
教員の実務 経験	理学療法士、公認心理師・臨床心理士、社会福祉士、医師、看護師
教員以外で 指導に関わ る実務経験 者の有無	○
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	介護福祉士、ケアマネージャー、臨床検査技師、放射線技師、ドクターヘリのパイロット、ドクターカーの運転士など
実務経験を いかした教 育内容	病院の施設見学において、病院の機能や役割を踏まえた説明を実施する。個別体験実習で各専門職の特徴を踏まえたリアリティのある説明ができる。